

2009年2月3日

富士重工業 電子制御燃料噴射システム採用の次世代汎用エンジン「EH72 FI」を発表 あわせてロビンVツインシリーズの一部をモデルチェンジ

富士重工業は、小型建設機械や発電機、コンプレッサー、乗用芝刈り機などの動力源として好評を得ている汎用OHVエンジン「ロビンEH/Vツインシリーズ」に、新たに電子制御燃料噴射システムを採用した「EH72 FI」を設定、本日より米国ラスベガスで開催される「ワールド・オブ・コンクリート（WOC）」で発表し、今春より量産、販売を開始する。

建築資材・工具等の国際見本市

ロビン EHシリーズは、小型・軽量の4サイクルエンジンとして、1985年1月に発売して以来、約210万台を世界中で販売。同シリーズは、ロビン汎用エンジンの中で最上位グレードのシリーズとして位置づけられ、総排気量25ccから720ccまでの全14機種を展開しており、4サイクルならではの好燃費やクリーンな排ガスなど高い環境性能と優れた耐久性能を誇る。

今回、開発した「EH72 FI」は、吸気流量の向上を図り高出力化を実現するとともに、新開発の電子制御燃料噴射システムを採用することで、外気温や空気濃度など外的要因に影響を受けにくい良好なエンジン始動性や運転性、燃料噴射マネジメントの最適化により燃費性能・排ガス性能の向上や加減速時における機敏な反応を実現した高性能モデルである。

また、ECU（エンジンコントロールユニット）を電子制御燃料噴射システムのスロットルボディに内蔵することで、キャブレター仕様のエンジンと同サイズのコンパクトな設計となっており、セット機メーカーでの搭載性に配慮した。



EH72 FI

なお、あわせてキャブレター仕様の「EH72」を「EH72-2」へモデルチェンジするとともに、「EH72 FI」も含めたVツインシリーズ各機種に、ユーティリティビークルなどへの搭載を前提とした車載仕様を追加設定した。

「EH72-2」は、2 バレル・サイドドラフトキャブレターの採用により吸気流量を増やすと同時に、カムプロフィールの最適化と圧縮比アップを図り、高出力化を実現した。

車載仕様は、エンジン全高を抑えることで車載性能を高めるとともに、EH72-2 同様の2 バレル・サイドドラフトキャブレターを採用することで、出力性能やアクセル応答性能の向上を図っている。

富士重工業は、産業機器カンパニーにおいて汎用エンジン事業を展開。世界中から高い信頼を獲得しているエンジンは、豊富なラインアップにより社会基盤を作る小型の建機や農機、生活を彩るレジャー機器など様々な用途の動力源として活用されている。今回の「EH72 FI」を皮切りに、他の汎用エンジンにも電子制御燃料噴射システム採用を広げ、利便性と環境性能の向上を両立したラインナップを強化し、多様なニーズに対応できる総合汎用エンジンメーカーとして、さらなる事業の拡大、発展を目指す。

【主要緒元】

モデル名	EH72 FI	EH72-2	(ご参考) EH72
型式	空冷4サイクルV型2気筒OHVガソリンエンジン		
総排気量(cc)	720	720	720
グロス最大出力 [kW (hp) / rpm]	20.9(28.0)/4000	18.7(25.0)/3600	18.7(25.0)/3600
連続定格出力 [kW (hp) / rpm]	14.9(20.0)/3600	14.2(19.0)/3600	13.4(18.0)/3600
全長×全幅×全高(mm)*	317×477×480	317×477×480	317×477×476
乾燥重量(kg)*	46	46	46

*マフラー無しの仕様